

中満 泉さん×杏さんが提言!

日本の女性がもっと輝くために 「優しい世界」の作り方

14時間の時差を超えて、国連で活躍する中満泉さんと日本の杏さんに対談していただくことになりました。テーマはもちろん、この世界をどうやったら私たちがもっと活躍できる、なおかつ優しい場所にできるのか。フォーチュン誌に「世界で最も偉大なリーダー50人」にも選ばれた中満さんと子育て真っ最中の杏さん。そんなふたりだからこそ聞けるお話がありました。

Text : YUKIKO YAGUCHI Realization : KYOKO TAKAHASHI



Anne

俳優
杏さん

あん●1986年生まれ。ファッション誌の専属モデルや海外のコレクションモデルを経て、俳優業に。『ごちそうさん』や『花咲舞が黙ってない!』など人気ドラマに主演。また2012年～2015年、25ansのカバーガールを務めた。一男二女の母でもある。



Izumi Nakamitsu

国連事務次長、軍縮担当上級代表
中満 泉さん

なかみつ いづみ●1963年生まれ。早稲田大学卒業後、アメリカジョージタウン大学外交大学院で修士課程を修了。同年、国連難民高等弁務官事務所に入所。夫はスウェーデン人の外交官。ふたりのお嬢さんはともに大学生。

ジェンダー平等が進んだら、男性も含め 世界全体がもっと幸せになります

▶▶▶ 中満さん

紛争地域赴任のときには
特殊部隊の軍人と取っ組み合い!?

中満泉さん(以下中満) こんにちは!ではなく、おはようございます、ですね。杏さんのお話、とても楽しみにしていました。杏さん(以下杏) よろしくお願ひします!中満さんのお仕事ですと、リモートは当たり前になっていらっしゃいますか。

中満 そうですね。今また、感染状況がひどくなっていますので、在宅勤務が推奨されています。先ほど杏さんのお膝をお子さんが取り合っていたけれど、ああいう光景がモニターに映し出されても、もう文句を言う人はいなくなりましたよね。子育て真っ最中の杏さんはいかがですか。

杏 俳優業はどうしても現場に行く必要があるのですが、在宅でできる部分は限られますが、例えば打ち合わせとか、こつこつ取材はリモートで済むこともあります。それだけでもだいぶ違いますね。さまざまな仕事を持つママ友がいるのですが、彼女たちはプラスにとらえている人が多いようです。中満さんがお仕事を始められた頃、女性であることがキャリアを重ねていく上で、マイナス、もしくはハンデになっていると感じられたことはありませんか。

中満 私が国連で仕事を始めたのは1989年でした。私の仕事は特殊と言えど特殊で、紛争地に向いていくことが少なくなかったんですね。なので、逆に若いお嬢さんがこんな大変な場所に来て……という受け取られ方をすることが多かったように記憶しています。セクハラみたいな言葉はまだなかったし、といったことはつまり、それ

が女性に不利益を強いているのだという感覚も人々は持っていなかったのではないかと。国連のなかでも、現在のように入力の数や男女半々にする、ということなど思いつきもしない時代でした。

杏 軍人が多いと男性がほとんどですか?
中満 はい。それは今も変わっていないと思いますが、軍人はほとんどが男性です。ですから当たり前のように女子トイレがない、女性用のバスルームがないんです。私たちにもトイレやバスルームは必要なのだとそれを理解してもらおうとところから始めなければならぬ、ということはありませんか。それと今となっては笑い話ですが、現在の感覚で言えば完全にセクハラ的な出来事があったときは、特殊部隊の軍人と取っ組み合いのけんかをしそうになったこともありました。

杏 特殊部隊と取っ組み合いのけんか!
中満 笑ってしまいますよね(笑)。でも30年前はそういう時代もありました。杏さんはいかがですか。お母さんになられて、困ったり、戸惑ったことはありませんか。

多様な子育て事情を知ると、
気持ちがおもしろくなる

杏 日本の女性は母親はこうあらねば、みたいに決めつけている部分が少ないんだなというところは、実際に、その立場になって感じています。私は本などで海外の子育てを調べることがありますが、ブラジルでは子どもは遅くまで起きていたんだとか、日本と違う事情を知ると気持ちがおもしろくなります。ドイツの夕食、カルテスエッセンと言ったと思いますが、夕食はパンやハム、チー